

# 東京都在宅医療推進強化事業における MCS機能強化の共同開発について

公益社団法人 東京都医師会 理事 佐々木 聰

一般社団法人 全国医療介護連携ネットワーク研究会 会長

公益社団法人 東京都医師会 理事 土屋 淳郎

# はじめに

- ・ 医師会共同利用施設とは、  
「医師会もしくは自治体・三セク等が設立主体となり、  
医師会が運営し、地域の医師会員が共同利用を図る施設」
- ・ しかし、必ずしも  
「施設に限定せず、事業を含めても」  
「医師会員だけでなく、医師会同士の共同・協働でも」  
いいのではないか？
- ・ 今回、東京都在宅医療推進強化事業で用いられる  
情報共有ツール（ICTシステム）の機能強化を、  
各地区医師会の共同開発という形で進めた

# 2040年の人口構成

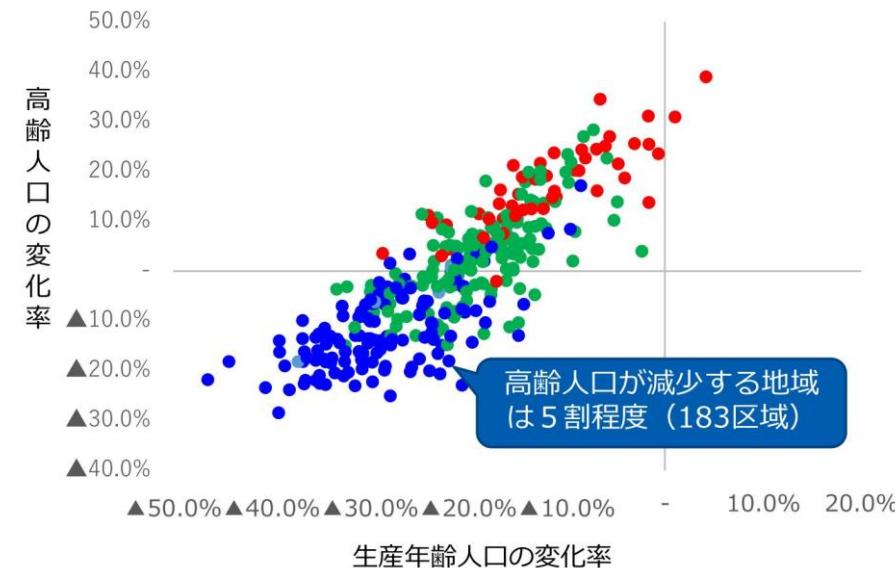
<2025年→2040年の年齢区分別人口の変化の状況>

	年齢区分別人口の変化率の平均値	
	生産年齢人口	高齢人口
●大都市型	-11.9%	17.2%
●地方都市型	-19.1%	2.4%
●過疎地域型	-28.4%	-12.2%

大都市型：人口が100万人以上（又は）人口密度が2,000人/km<sup>2</sup>以上

地方都市型：人口が20万人以上（又は）人口10～20万人（かつ）人口密度が200人/km<sup>2</sup>以上

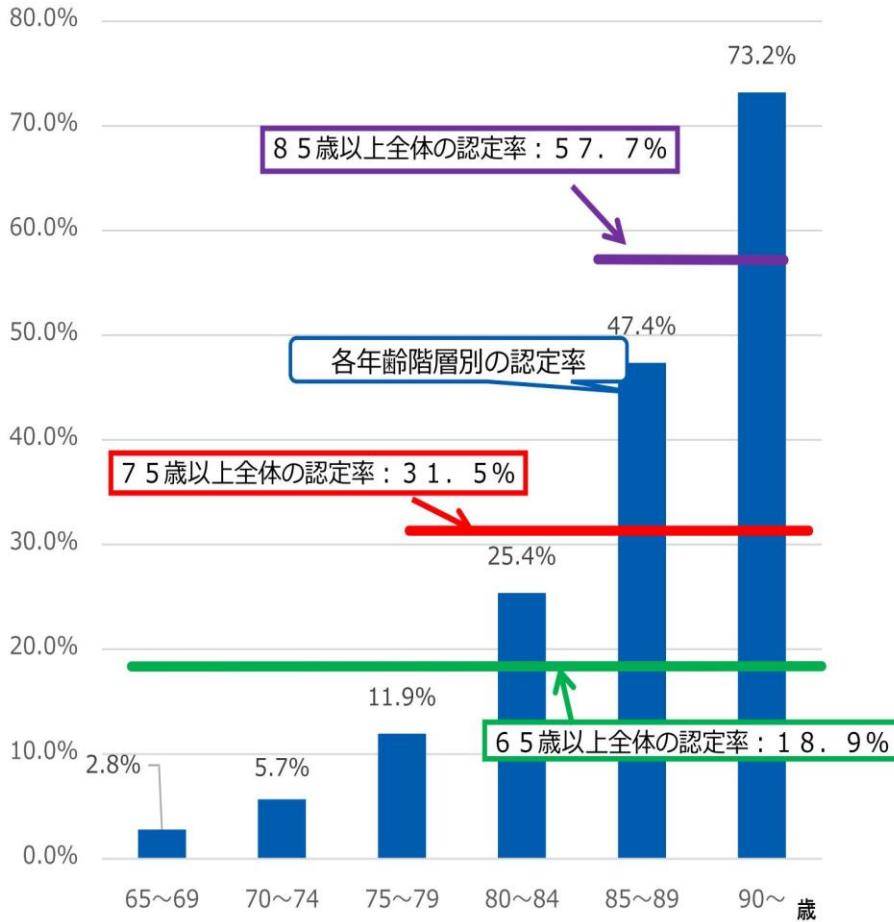
過疎地域型：上記以外



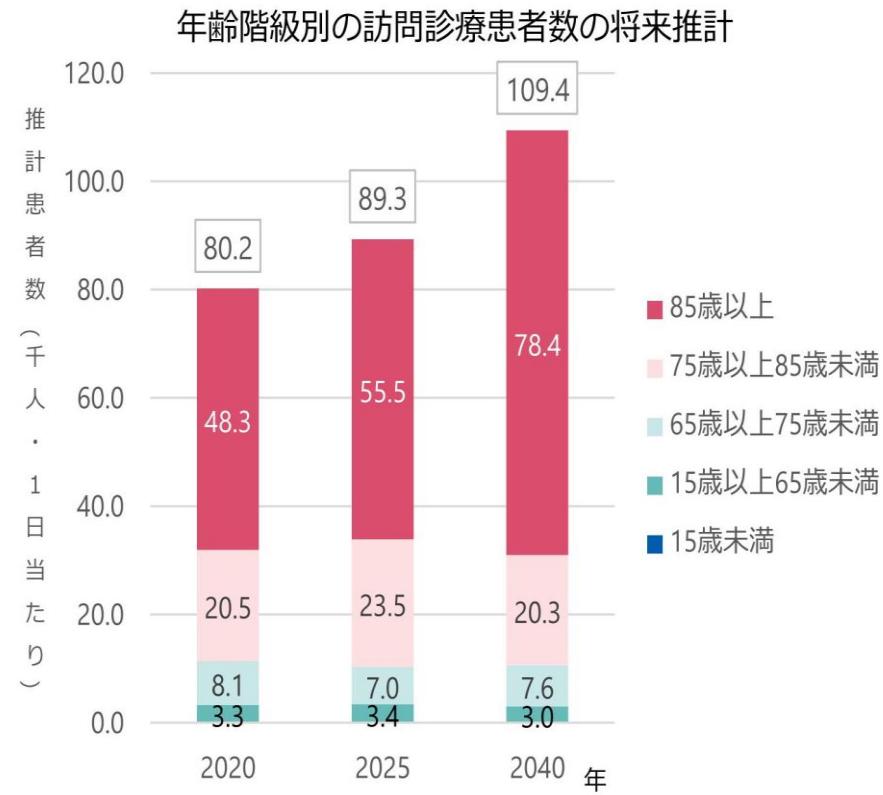
- ・ 2040年には、高齢化と生産年齢人口の減少が見られる
- ・ 生産年齢人口はほぼ全ての地域で減少し、  
高齢人口は、大都市部では増加、過疎地域では減少、  
地方都市部では高齢人口が増加する地域と減少する地域がある

# 医療と介護の複合ニーズ 在宅医療需要の増加

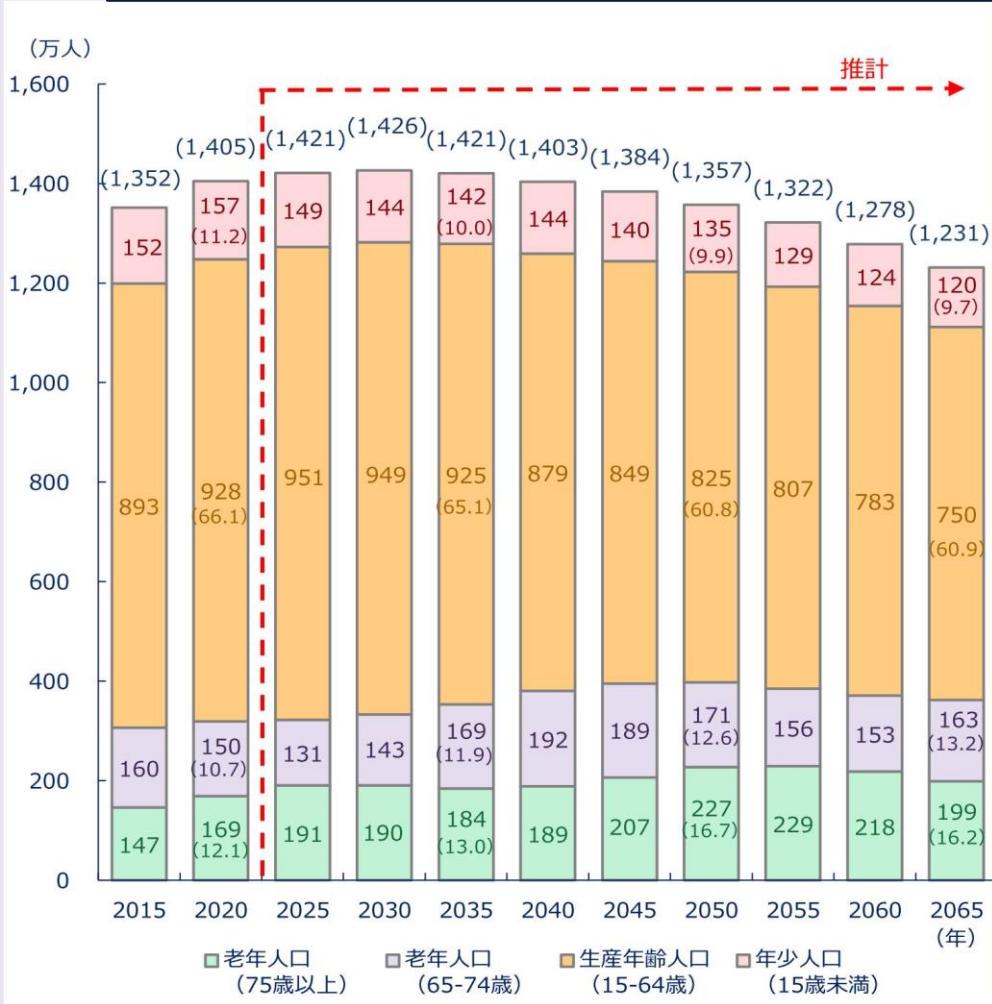
年齢階級別の要介護認定率



在宅医療需要の増加



# 東京の将来は？



- しばらく人口増加が続く
- 高齢人口、高齢化率は上昇
- 生産年齢人口は減少
- 高齢世帯・高齢独居の増加
- 医療・介護複合ニーズの増加
- 高齢者救急の増加



## 在宅医療の推進

### 東京都の高齢化率の推移

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
高齢化率 (%)	22.7 (22.74)	22.7 (22.67)	23.4	24.9	27.1	28.6	29.3	29.1	29.0	29.4

# 東京都在宅医療推進強化事業

## 【地域における24時間診療体制の構築】

- ・在宅医療に取り組む地域のかかりつけ医の連携、夜間対応を行う医療機関・往診を支援する事業者との連携等による24時間診療体制の構築
- ・医師、訪問看護師、多職種との連絡調整を担う窓口の設置及び運営

## 【デジタル技術を活用した医療DXの推進】

- ・デジタル技術を活用した24時間体制構築に資する取組

※令和5年度より3か年は都の補助事業  
令和8年度より、各自治体の補助事業

# 在宅医療推進強化事業 交付決定状況

## 1 補助金が交付決定された地区医師会数

令和5年度 → 6年度 → 7年度

事業名	地区医師会数
24時間診療体制推進事業	26
デジタル技術を活用した医療DX推進事業（DX加算）	19

→ 32 → 36  
→ 26 → 26

## 2 対象地区医師会一覧

番号	地区医師会名	DX加算
1	小石川医師会	
2	浅草医師会	○
3	江東区医師会	○
4	足立区医師会	
5	葛飾区医師会	
6	江戸川区医師会	○
7	新宿区医師会	○
8	目黒区医師会	○
9	世田谷区医師会	○
10	渋谷区医師会	○
11	杉並区医師会	○
12	荏原医師会	○
13	豊島区医師会	○

番号	地区医師会名	DX加算
14	板橋区医師会	○
15	練馬区医師会	○
16	西多摩医師会	
17	調布市医師会	○
18	町田市医師会	
19	西東京市医師会	○
20	東久留米市医師会	○
21	稲城市医師会	
22	八王子市医師会	○
23	日野市医師会	○
24	立川市医師会	○
25	小平市医師会	
26	国分寺市医師会	○

# 東京都在宅医療推進強化事業における 情報共有ツール（ICTシステム）は？

- ・東京都在宅医療推進強化事業においては、  
情報共有ツール（ICTシステム）の活用が求められる
- ・東京都全体が統一したシステムで繋がることが望ましい
- ・東京都の多くの地域でMedical Care Station（MCS）  
が使われている

# 東京都地区医師会一覧

ブロック	二次医療圏						
中央ブロック	区中央部	千代田区・神田 千代田区	中央区・日本橋 中央区	港区	文京区・小石川 文京区	浅草・下谷 台東区	
城南ブロック	区南部	品川区・荏原 品川区	大森・蒲田・田園調布 大田区				
城西ブロック	区西南部	目黒区	世田谷区・玉川 世田谷区	渋谷区			
	区西部	新宿区	中野区	杉並区			
城北ブロック	区西北部	北区	豊島区	板橋区	練馬区		
城東ブロック	区東北部	荒川区	足立区	葛飾区			
	区東部	墨田区	江東区	江戸川区			
多摩ブロック	西多摩	西多摩医師会 [(青梅市)、(福生市)、(羽村市)、(あきる野市)、瑞穂町、日の出町、奥多摩町、檜原村]					
	南多摩	八王子市	町田市	日野市	多摩市	稲城市	
		八王子市保健所	町田市保健所	南多摩保健所			
	北多摩西部	立川市	国分寺市	(昭島市)	(国立市)	(東大和市)	(武藏村山市)
		多摩立川保健所					
	北多摩南部	武藏野市	三鷹市	府中市	調布市	小金井市	(狛江市)
		多摩府中保健所					
大学ブロック	北多摩北部	小平市	東久留米市	西東京市		(東村山市)	(清瀬市)
		多摩小平保健所					
		東京大学	慶應	慈恵	日本大学	日本医科大学	東京医科大学
病院ブロック		女子医大	東京医科歯科大学	昭和大学	帝京大学	順天堂大学	東邦大学
		都立病院					

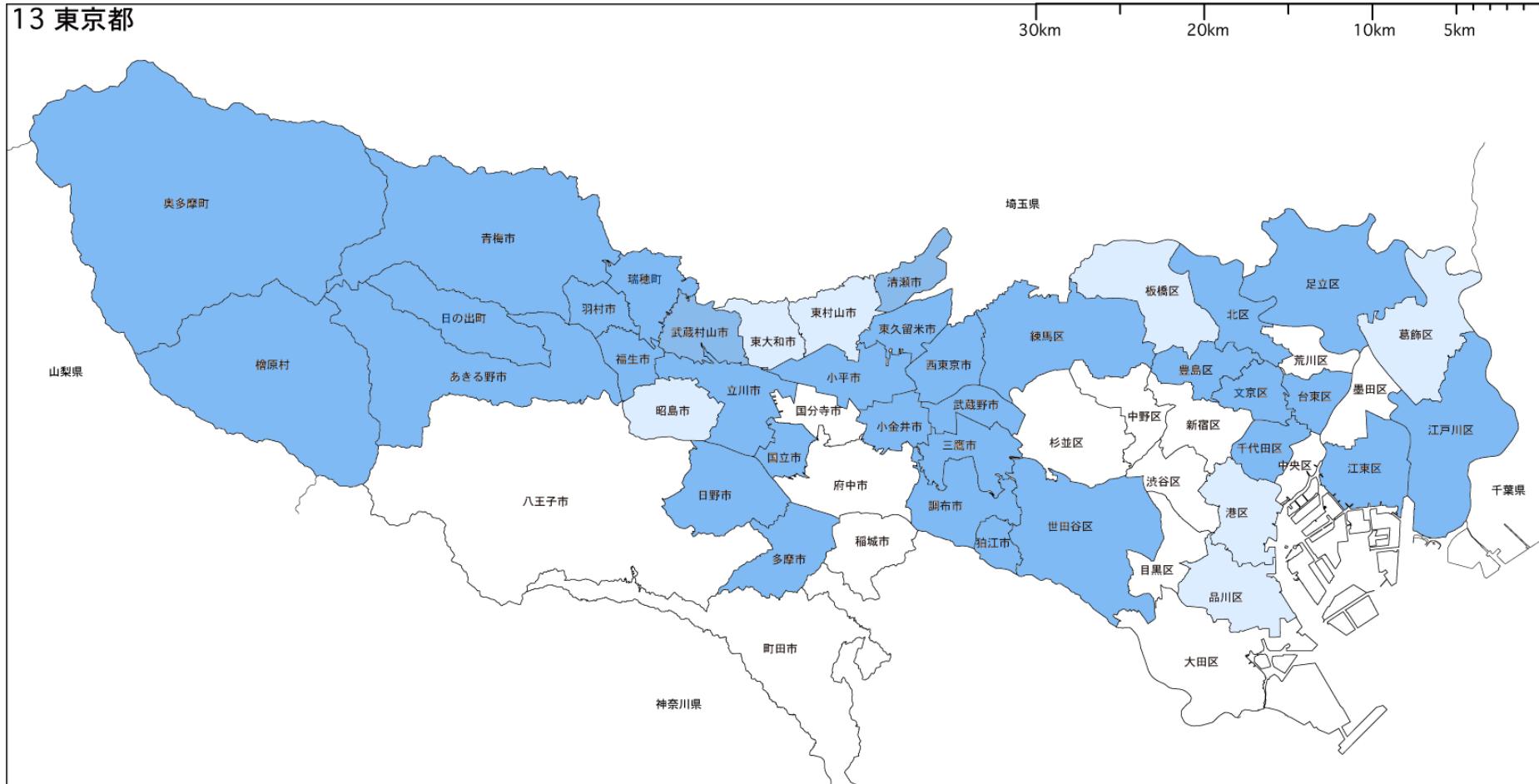
太字：医師会  
細字：区市町村

	医師会	区／市
区 部	31	23区
多摩部	17	26市
大 学	12	
病 院	1	

北  
多  
摩  
医  
師  
会

# 東京都におけるMCS採用状況

13 東京都



# 在宅医療推進強化事業に MCSを利用する場合

- MCSは〔患者グループ〕を中心とした多職種連携のためのコミュニケーションツール
  - 管理者が、グループの作成・関係者の招待を行う
  - 定常的な業務、特定のメンバーによる運営に向いている
- ※ 突発的な事象、臨時的なメンバーの参加には不向き



在宅医療推進強化事業に利用するためには、  
MCSの機能強化が必要であろう

# MCSの機能強化に関する共同開発の提案

各地区医師会ごとに個別に対応するのは  
調整・開発の手間、費用の増大



各地区医師会の意見集約、費用の案分  
共同開発による効率的な機能強化

# MCSの機能強化に伴う 共同開発に関する意向調査

## 【MCSに求める機能強化】

- ・当番医を登録する手間、当番医グループの一括登録
- ・電子カルテとの情報共有、他のツールとの連携
- ・セキュリティ対策、個人情報保護
- ・ワンタイムパスワード機能(救急・緊急時にも利用)

## 【MCS機能強化の共同開発について】

- 共同開発によりコスト負担の軽減が期待できる
- 共通の基盤が開発できることは大変有難い
- × MCSにのみ費用援助するのはいかがなものか
- × 参加しない医師会に費用負担が生じないようにして頂きたい

# MCSの機能強化共同開発に向けて

- ・意向調査の結果、希望のあった15の地区医師会による会議室をMCS上に設置し、機能強化の共同開発に向けた協議を開始した
- ・今回の機能強化は「チーム機能」に絞って開発を進める方向となった
- ・尚、各地区医師会との調整、エンブレース社とのやりとりなど、共同開発の実務については、一般社団法人 全国医療介護連携ネットワーク研究会にて行うこととした

# そもそも「MCS」とは

## MedicalCare STATION

ホーム サービス紹介 プラン・料金 導入事例 利用サポート よくあるご質問

無料新規登録

ログイン

### 医療介護現場がリアルタイムにつながる多職種連携ツール

連絡の手間を短縮、もっと患者・利用者と向き合える

メディカルケアステーション（MCS）は、全国の医療介護の現場でご利用いただいている地域包括ケア・多職種連携のためのコミュニケーションツールです。

全 医師会 多数採用 | 医療・介護 ユーザー 33万人以上

基本機能  
無料

新規登録して始める

MCSはじめてガイド



ウェブブラウザ・アプリにて各種端末で利用できます

スマホアプリダウンロード

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう



動画で分かる  
MCSはじめて  
ガイド  
[見る >](#)



患者の経過は時系列で把握、訪問前の情報収集も容易に

MCSでは患者ごとに関係する多職種が繋がり、患者の経過や共有したい情報をその場でタイムリーに投稿できます。投稿は時系列で残るので、状況の変化もしっかり把握できます。

訪問前までの情報の聞き取りや確認に時間をかけすぎてしまうことがなくなり、その分患者の診療に時間を費やすことが可能です。



症状やリハビリの方法なども写真や動画でわかりやすく共有

文章だけでは伝わりづらい症状や治療方法、リハビリ方法なども写真や動画を活用すればわかりやすく伝えることができます。

紙で共有している情報も写真に撮ってアップするよう習慣づけると、患者ごともしくはグループごとに整理され、いつでもどこでも検索できるようになります。



申し送り事項はMCSにアップすれば関係者全員が把握できる

患者の情報を必要な職種・施設に送りたくても、メールや電話では一人ひとりに連絡する手間がかかり、すれ違いや連携漏れも起きやすくなってしまいます。MCSなら、連携したい情報をアップしておけ



厚生労働省などのガイドラインに準拠したセキュリティで大事な情報を守ります

MCSは厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版」経産省・総務省の「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」に基づきご利用いただけます。また、国際規格であるISO27001、ISO27017およびプライバシーマークを取得し、毎年認証を受けることにより、最新のセキュリティ基準に準拠した運用・管理をおこなっています。



IS 719263

CLOUD 785735

ISO/IEC

27001

Information Security

Management

CERTIFIED

ISO/IEC

27017

Cloud Security

Management

CERTIFIED



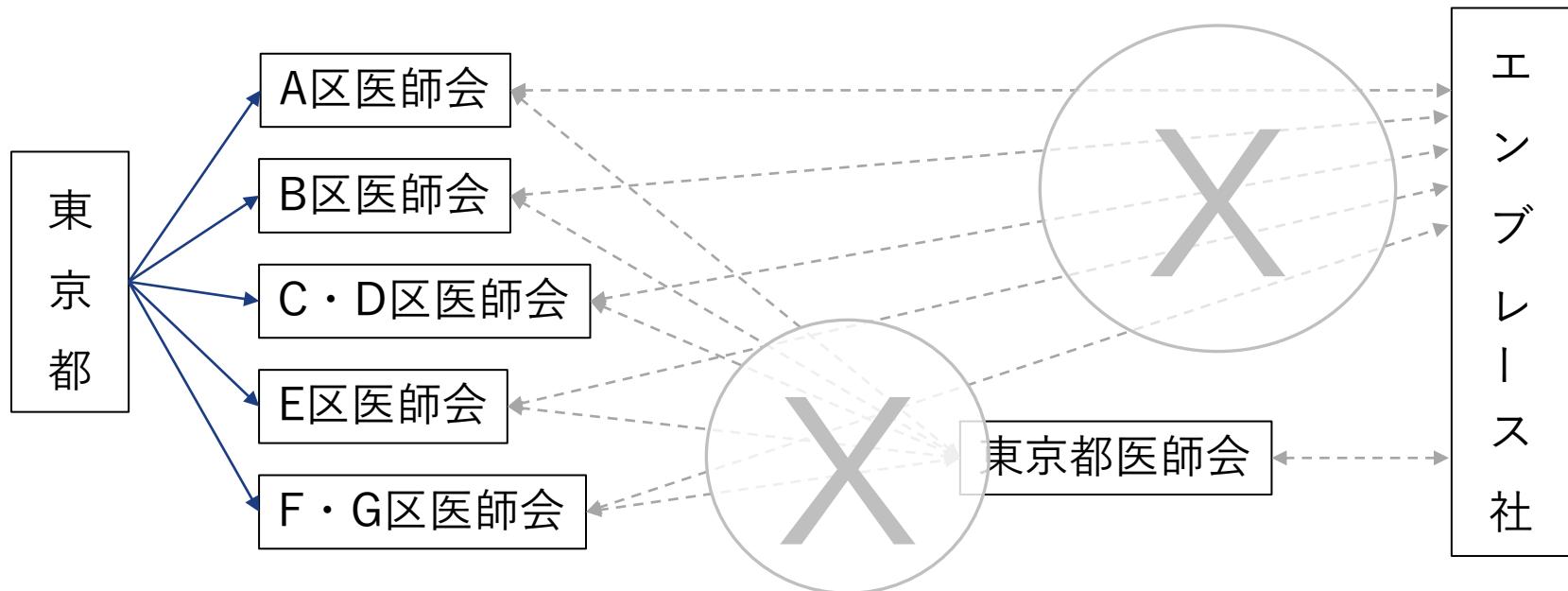
17001617(08)

<https://about.medical-care.net/html/>

# MCSの機能強化共同開発について

## ○共同開発についての課題

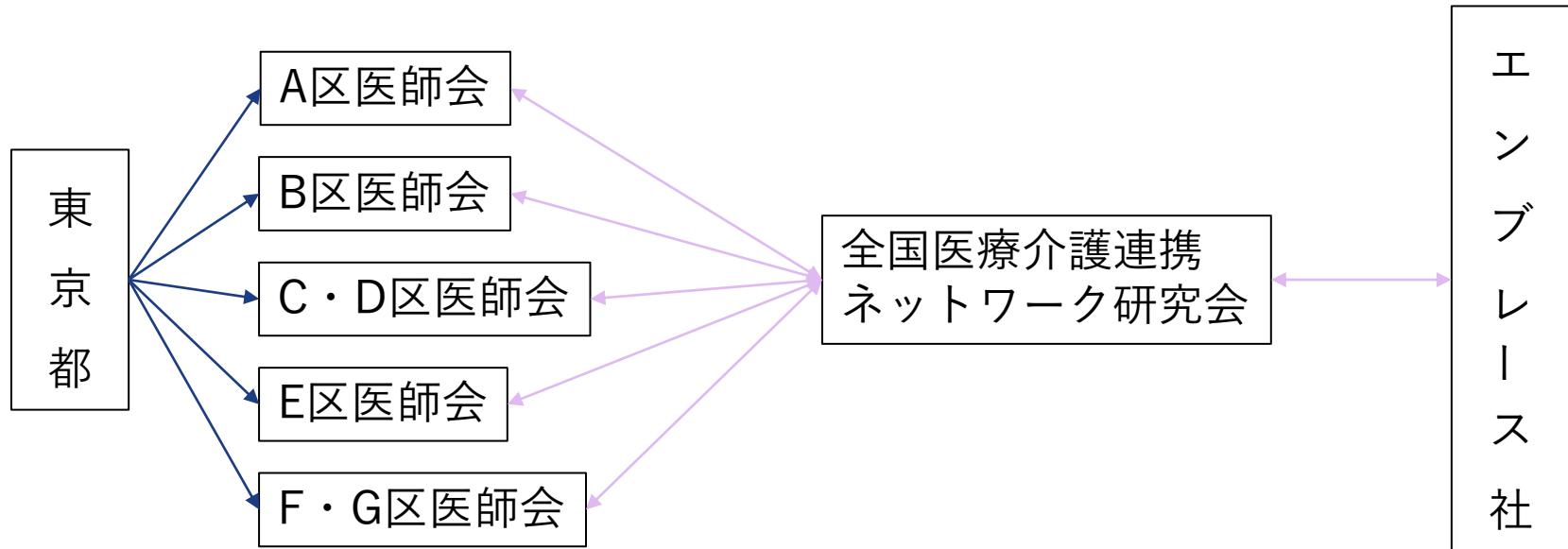
- ・ 東京都と各地区医師会の個別契約である
- ・ 一つの行政区に複数の医師会がある地区もある
- ・ エンブレース社には医師会との連絡・調整する適当な者がいない
- ・ また、各医師会とそれぞれに対応することも難しい
- ・ 地区医師会をまとめる東京都医師会は当事業の受託者ではないし、都内にはMCSを利用していない地区医師会もある



# MCSの機能強化共同開発について

## ○課題への対応

- ・各地区医師会とエンブレース社との連絡・調整役として、全国医療介護連携ネットワーク研究会(医介連)が担当する  
※各医師会はエンブレース社と契約  
    契約内容に、連絡・調整は医介連が行うことと明記。  
※エンブレース社と医介連は上記内容実施の契約を行う
- ・東京都医師会は上記スキームの周知のみ行う



# 全国医療介護連携 ネットワーク研究会(医介連)とは

- 2014年設立、2020年に一般社団法人化
- 地域包括ケアネットワーク構築におけるICTシステムの普及、啓発等
  - ・事例集、提言、全国大会…
- 医師会、行政、ユーザー、ベンダーなどをつなげて、新たな価値を作り出す

完全非公開型 医療介護専用SNSを利用した  
**患者を支える医療**  
**全国事例33**  
～地域包括ケアのために～

全国医療介護連携ネットワーク研究会

多職種連携ネットワークシステムの要件 10カ条

当研究会は、多職種連携ネットワークシステムの実現として、以下の10カ条を満たしていることが望ましいと考えています。

- 簡単な操作性で、マニュアルがなくても直感的に使えること  
医療者は「はじめ医師さんやさざなみ多職種が日常業務の負担にならないように、ITリテラシーを問わず簡単に直感的な操作で利用できるものであること。
- 無理な操作性でなく、操作性の良さ、直感性や易用性、操作性の観点から、地域の自治体、医師会、各施設や、多職種連携システムの普及性、持続性であること。
- セキュリティはしっかりとして、頼れるまでにかつ安全であること  
個人情報保護などの法律や厚生労働省のガイドライン等を複数ガイドラインに準拠し、わかりやすくアクセス制御で、使いやすく安全であること。
- 写真やファイルも情報共有ができること  
テキスト情報のみならず、画像や動画、計画書等の各種ファイルについて、ファイル形式を問わず、適切な情報共有ができること。
- モバイル性を備え、いつでもどこでも使えること  
設置型のパソコンはもちろん、モバイル型のタブレット端末、スマートフォンなど複数を問わず簡単にネットワークに接続していつでもどこでも利用可能であること。
- アプリの追加やシステム連携機能擴張が可能であること  
オーバーフローモデルを含むことにより、標準機能に加えて、例えばパーソナル管理やスケジュール管理のような各種アプリの追加や、他社とのシステムとの連携等により地域特性や施設のニーズに合わせて機能拡張して利用できること。
- 特定のハーネスやソフトに依存しないこと  
特定の機器、特定のものなどのソフトのみでしか稼働しないといった依存性がなく、汎用的に利用可能であること。
- 安心の災害対応とデータ連携ができるること  
サービスのICP対策が十分になされていて、災害時などでも利用可能のように十分配慮されおり、万が一の障害、不運時でもデータの保証がなされるなどの管理がされていること。
- 十分な実績があり他の地域とも連携ができること  
上記各条に基づいて、十分な実績(年数及び複数地域での)があり、行政区をまたいで連携も可能であること。
- 運用手引シートなどの作成支援や情報提供の体制があること  
会員登録料金に伴う、手引シート(年数及び複数地域での)があり、運営のための情報提供等の

医介連

Q

全国医療介護連携ネットワーク研究会  
第18回全国大会

## 2024年度診療報酬改定と 医療DX活用 ～制度と現場双方向から～

日時 **10.5 (土)** 形式 会場開催  
(東京駅近辺)  
Zoom配信  
(見逃し配信有り)

土屋 淳郎 豊島区医師会長  
矢野 好輝 厚生労働省  
長島 公之 日本医師会

道傳 潔 東京都保健医療局  
山田 英人 戸塚区医師会副会長  
谷合 久憲 医介連理事

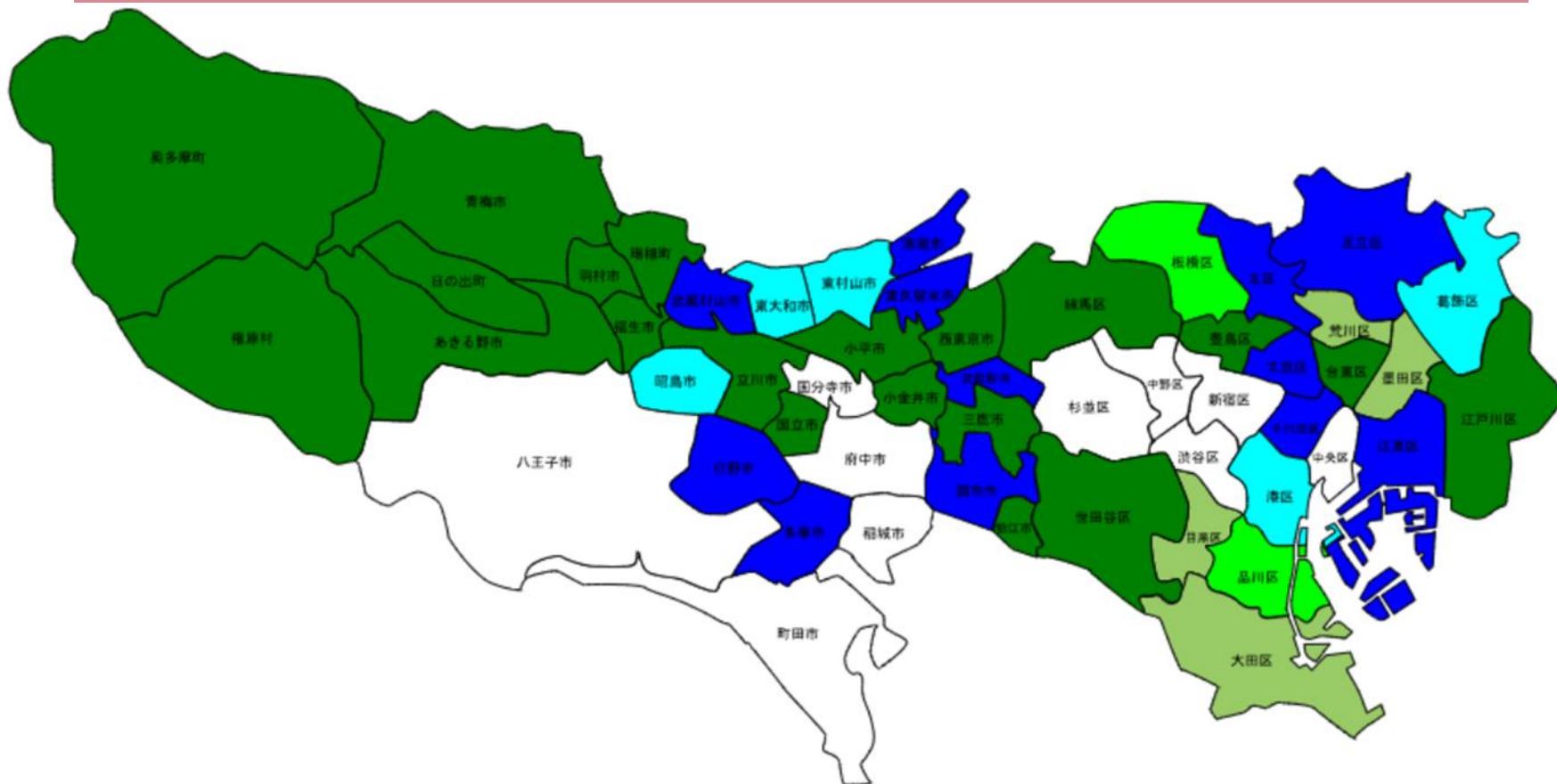
全国医療介護連携  
ネットワーク研究会  
第19回全国大会  
@大阪

## 2025年問題を超えて： 多職種連携と医療DXで共創する未来

日時 **2025.9.6 (土) 15:30-19:00** 形式 会場開催 (梅田駅徒歩5分)  
Zoom配信 (見逃し配信有り)

土屋 淳郎 辻 毅嗣 松本 康代 緑 典子 茂松 茂人 守上 佳樹 久保田 恵巳 大濱 江美子 東 大里  
医介連研究会会長 豊中市医師会会長 訪問看護ステーションCIL 豊中市保健所難病支援係 日本医師会副会長 一般社団法人KISA2委員会YOKATA くぼたこどもクリニック院長 大阪市立総合医療センターMSW 医療法人正幸会正幸会病院院長

# 在宅医療推進強化事業に関する MCS機能強化協働開発参加地区



- MCS採用地区
- 一部採用地区
- 未採用地区

25地区のうち  
7地区のうち  
14地区的うち

- 1 地区が参加
- 2 地区が参加
- 3 地区が参加

# MCS新機能の要望について

カテゴリ	要望	考えられる開発機能
24時間診療体制関連	チーム機能 チームメンバーとして参加しているタイムラインの通知を他と分けた特別な通知にして欲しい	通知メッセージを変えて実装
	チーム機能 チームメンバー内で担当がわかるようにして欲しい（例：訪問看護チームの訪看名）	担当者にマークを付けるようにする
	チーム機能 自由グループでもチームを招待できるようにして欲しい	チーム機能の自由グループへの招待機能の開発
	チーム機能 往診医師チームの中に訪問看護師チームを入れられるようにして欲しい	チームの中に別のチームを招待
	チーム機能 患者ごとに表示・非表示する操作が手間がかかり面倒	チーム単位で表示・非表示できるようにする
	チーム機能 当番以外の医師に患者タイムラインを見せたくない	当番日だけ患者タイムラインにアクセスできる機能
	チーム機能 当番スケジュール管理表と連動して自動でチームを招待できるようにして欲しい	当番スケジュール表管理機能の新規開発とチーム機能の連動
	チーム機能 緊急時等にチームメンバーにスムーズに電話連絡したい	携帯番号の登録及び通話発信機能
	チーム機能 ホーム画面の患者リストでチームで入っているかどうかわかるようにして欲しい	
	チーム機能 チーム一覧に管理している施設名を表示して欲しい	施設名表示
	チーム機能 チーム一覧を絞り込みまたは優先順位表示（豊島区、住所が近い、医師がいるなど）	チーム一覧絞込表示機能
	チーム機能 緊急時の承認スキップできるようにして欲しい	事前にチームの承認処理のみを実装
	24時間体制	ワンタイムパスワード発行による患者タイムラインへの参加
当事業対象外の要望	MCS全般 真面目に投稿、閲覧しようとすればするほど業務が煩雑	短時間で書き込みや閲覧できる仕組み
	MCS全般 多職種の書き込み量が多くなると斜め読みとなってしまう	短時間で多職種の投稿が閲覧できる仕組み
	MCS全般 どの電子カルテとも繋がるようにして欲しい	電子カルテとのマルチ接続
	MCS全般 施設患者をフロア別に分けて表示して欲しい	患者タイムラインのグルーピング
	MCS全般 重要な投稿を探しにくい	自由テーマでのフォルダ整理機能
	MCS全般 投稿内容から緊急対応の判断や投稿入力のDX化	自動音声入力、AI生成の組入
	MCS全般 診療報酬上算定に必要な書類をMCSでデータ共有	書類データへ電子署名を施す機能
	MCS全般 タイムラインでどこまで読んだか分からない	"ここから未読"の表示
	MCS全般 患者利用者画面で主治医参加とその他参加を分けて表示して欲しい	患者タイムラインのグルーピング
	MCS全般 タイムライン内にACPを含めた患者サマリー情報の投稿、閲覧したい	患者タイムライン内に患者サマリー専用枠を作成
	MCS全般 患者情報を入力するのが手間	電子カルテから患者情報を簡単に移す機能
	MCS全般 所属を複数持つユーザーはアカウントを使い分けるのが面倒	同一メールアドレスで複数のアカウント発行
	MCS全般 患者情報をよりリッチに	マイナンバーカードとの情報連携
	MCS全般 見て欲しい重要な部分を簡単かつ確実に情報取得して欲しい（したい）	投稿文章の重要な部分に★マーク
	MCS全般 PDF等のデータが探しにくい。特に途中参加した人は過去に遡る必要がある	ファイルデータを簡易に探すことができる機能
	MCS全般 患者側利用時の患者承認が進まない（主治医の判断に委ねる）	権限のあり方、使い勝手の変更
	MCS全般 最新の患者サマリー情報（いつ時点なのか含めて）を入力・閲覧できるスペースが欲しい	患者ページの改修あるいはタイムラインページ内にスペース作成
	MCS全般 入力の二度手間をなくしたい	カルテとの連携（双方向）
	MCS全般 本当に必要な情報だけを短時間で確認したい	本当に必要な情報だけを短時間で確認したい
	MCS全般 MCS登録やにつながりを簡単にできる仕組みが欲しい	QRコード表示、スマホフリフリ
	MCS全般 患者サマリーを手間なく確実に共有したい	電子カルテ情報を患者タイムラインに簡便に転記
	MCS全般 ACPを含む患者サマリーを共有確認したい	MCS内に患者サマリー専用枠を作成

# MCS新機能「チーム機能」の開発へ

○多くの要望から下記の条件により開発機能を決定

- ・在宅医療推進強化事業に関連するもの
- ・多くのニーズがあるもの
- ・汎用性が高いもの
- ・開発可能性の高いもの

※運営ポリシーに準じるものに限る

※他社システムの開発が必要なものは除く

⇒ 「チーム機能」を開発することに決定

# MCS新機能「チーム機能」とは

それぞれの事業所に所属する医師や看護師が、支援する患者タイムラインにそれぞれが参加すると、管理や対応が困難になり、誰が何の目的で支援しているのかもわかりにくい！！



支援チームとして一括管理



# MCS新機能「チーム機能」とは

## 機能.医療介護側タイムラインの参加

医療介護側タイムラインに、チームが参加できます。

The screenshot shows the 'Medical Care Side Timeline' interface. At the top, it displays the patient information: '患者性 患者名(医療・介護側): ...' and '一括招待 メニュー'. Below this, the user '鶴田 久恵' is listed. A red circle highlights the 'チーム' (Team) icon in the participant list, which includes 10 users. A message input field says 'メッセージを入力して下さい' and a send button '送信' is shown. Below the message area, a post from '高橋 純一' is displayed, containing a message about an elderly patient's fall and CT scan results. At the bottom, there are reply and forward buttons.

### チームを招待

The screenshot shows the 'Team Invitation' screen. It has a header '招待 (医療・介護側: 患者性 患者名(医療・介護側): ... 一括招待 メニュー)'. Below it, there are tabs: '戻る' (Back), 'メールで招待' (Invite via Email), and '完了' (Completed). A search bar 'チーム名、説明' is present. Underneath, there are four categories: '自施設' (Own Facility), '他施設' (Other Facilities), '施設別' (Facility Type), and 'チーム' (Team), with 'チーム' being selected. Each category lists a team name with a plus sign to add it: '○○区夜間対応用Aチーム' (○○区夜間対応用Aチーム), '○○区医師会緊急対応用施設' (○○区医師会緊急対応用施設), '△△区夜間対応用Bチーム' (△△区夜間対応用Bチーム), '△△区医師会緊急対応用施設' (△△区医師会緊急対応用施設), '□□区夜間対応用Cチーム' (□□区夜間対応用Cチーム), and '□□区医師会緊急対応用施設' (□□区医師会緊急対応用施設).

- 医療介護側タイムラインに、チームが参加できます。
- 参加したチームのメンバーは、参照・投稿ができます。
- チームメンバーの投稿メッセージに、チームのアイコンが表示されます。

- 医療介護側タイムラインに、チームを招待できます。
- 招待対象は、招待者とチームメンバーにつながり関係のあるチームです。

※主な画面を抜粋

# MCS新機能「チーム機能」とは

## 機能.医療介護側タイムラインの確認

チームメンバーとして参加中の、医療介護側タイムラインを確認できます。

ホーム

患者・利用者 グループ つながり

名前、施設名、フリーワード

職場の情報共有 16:25  
昨日の打合せの議事録をアップしました。

隅田 久恵：一言メモ 18:38  
昨日から少し熱があるようです。お薬…

青山 善二：一言メモ 18:38  
血圧が少し高いくらいでは、ほとんど…

認知症グループ 9/11  
高齢化の進展とともに、認知症の人数…

豊島区医師会 9/11  
豊島区医師会の情報交換の場として活…

患者・利用者

名前、一言メモ、疾患名、薬歴、連携

チーム ▾ 新着順

隅田 久恵 17:00  
昨日から少し熱があるようです。お薬…

青山 善二 10:00  
血圧が少し高いくらいでは、ほとんど…

- ホーム(※ログイン直後の画面)に、チームメンバーとして参加中の医療介護側タイムラインが表示されます。
- タイムラインごとに表示・非表示の設定ができます。
- 患者・利用者画面に、チームメンバーとして参加中の医療介護側タイムラインが表示されます。
- チームメンバーとして参加中のタイムラインのみに絞り込みができます。

※主な画面を抜粋

# MCS新機能「チーム機能」とは

## 機能.チームの管理

チームの作成、チームメンバーの招待、自施設のチームの確認ができます。

チーム作成

チーム管理 メニュー

戻る チーム情報入力 確認

チームアイコン  
画像を設定する

チーム名 ※必須  
○×区夜間対応用チーム

説明  
○×区医師会の運営する当番医チームです。  
有料老人ホームやグループホームといった施設への往診も承っています。

キャンセル 確認する

メンバー管理

チーム管理 メニュー

戻る メンバー選択 (0/2) 登録

名前、所属、専門家種別 検索

自施設 他施設 施設別

すべて選択 / すべて解除

富田 裕次 医師 (富田医院) +

中田 保 認灸師 (富田医院) +

チーム一覧

チーム管理 メニュー

戻る + 新規に作成する 編集

チーム名、説明 検索

手 ○×区夜間対応用Aチーム

花 ○×区夜間対応用Bチーム

蝶 ○×区夜間対応用Cチーム

- チームを作成できます。
- 作成したチームは、自施設に所属します。
- チームにメンバーを招待、解除できます。
- 参加したチームメンバーは、同時に、チームが参加中の医療介護タイムラインに参加します。(解除も同様)
- メンバーの参加・解除履歴はCSVファイルでダウンロードできます。
- 自施設のチームを参照、削除できます。
- チームを削除すると、同時に、参加中の医療介護側タイムラインから参加が解除されます。

※主な画面を抜粋

# MCS新機能「チーム機能」の実際

The image shows two screenshots of the MCS (Medical Care System) application interface. The top screenshot displays the 'Team' information for the '豊島区池袋休日診療所\_在宅医療推進強化チーム (平日夜間・休日対応)' (Toshima Ward Ikebukuro Weekend Clinic Home Care Promotion Strengthening Team (Night Shift, Weekend Response)). The bottom screenshot shows a linked social media feed titled '豊島区池袋休日診療所\_在宅医療推進強化チーム' (Toshima Ward Ikebukuro Weekend Clinic Home Care Promotion Strengthening Team), which includes a message from a doctor at the hospital.

**Top Screenshot (Team Information):**

- Left sidebar: チーム (Home, Patients/Utilizers, Groups, Connections, Community, Management, Staff, Teams, Facility Search, Apps, Connected Services, Opinions/Wishes, Others, Settings, Logout).
- Right panel:
  - Team Name: 豊島区池袋休日診療所\_在宅医療推進強化チーム (平日夜間・休日対応)
  - 所属施設: 豊島区池袋休日診療所
  - 説明: 豊島区医師会の運営する「豊島区池袋休日診療所」の平日夜間・休日の電話・往診対応を行うチームです。かかりつけ在宅医から登録を頂いた在宅患者様にご対応を行います。
  - 対応時間: [平日] 19時～翌7:00  
[土日祝] 7時～翌7時 (12/29～1/4含む)
  - チームメンバー: 一覧 (List of members)
  - チームが参加中のタイムライン: 年に表示 (Show by year), 月に表示 (Show by month), 日に表示 (Show by day).

**Bottom Screenshot (Social Media Feed):**

- Left sidebar: ホーム, 患者・利用者, グループ, つながり, コミュニティ, 保管・削除, スタッフ, チーム, 施設検索, アプリ一覧, 連携サービス, ご意見・ご要望, その他, 設定.
- Right panel:
  - Top navigation: ホーム, 受取側, 検索, 通知.
  - Left sidebar: ホーム, 患者・利用者, グループ, つながり, コミュニティ, 保管・削除, スタッフ, チーム, 施設検索, アプリ一覧, 連携サービス, ご意見・ご要望, その他.
  - Main content:
    - Medical-Care Side: 医療・介護側 (Medical-Care Side)
    - Patient-User Side: 患者・利用者側 (Patient-User Side)
    - Message Input: メッセージを入力して下さい (Please enter a message).
    - Message Preview: 医師 (院内にうちあらわし病院) 8/1 18:18  
豊島区池袋休日診療所\_在宅医療推進強化チーム様を医療・介護側タイムラインに招待いたしました。  
ドクターコールについて、ファーストは変わらず当方 (院内にうちあらわし病院) を鳴らして頂きますが、当方の不都合時または当方に連絡が取れない際に頼らせていただくことになります。
    - Message Footer: 引き続きよろしくお願ひいたします.
    - Message Metrics: 3 (3人)返信.

# MCSの機能強化共同開発の今後

○在宅医療推進強化事業最終年度に向けて、参加医師会の調整中。参加医師会の数に応じて下記の機能強化を検討中。

## ①「チーム機能」の強化

- ・自由グループでのチーム機能利用
- ・チーム単位での表示/非表示等の設定機能
- ・チームメンバー追加時の通知機能

## ②患者サマリー表示機能

→支援チームが患者の経緯等を簡単に確認できるように、患者タイムラインに自動でサマリーを作成し表示する

## ③添付ファイル等の固定表示機能

→現在は添付されたファイルや画像の一覧表示がわかりにくいので、速やかにアクセスできるようにする

○集約した意見をもとに共同開発し、より良いシステムへ！

# まとめ

- ・ 東京都在宅医療推進強化事業においては、情報共有ツール（ICTシステム）の活用が求められる
- ・ 東京都で最も普及しているのはMCSであったが、本事業に用いるにはその機能強化が必要と考えられた
- ・ 機能強化における意見集約と開発費用の案分を目的に、地区医師会による共同開発を提案し進めた
- ・ 今後、各医師会による施設の設立・運営に限定せず、事業も含めた医師会同士の共同・協働を行うことも、医師会共同利用として有用ではないかと思われる